

石油給湯器

2022. 3. 17

昨年の年末に、ゆっくり朝風呂にでも入ろうかなと追い炊きのスイッチを押した。いつもなら「追い炊きが終わりました」と、無感情の乾いたアナウンスが聞こえるのだが、その日は聞こえなかった。

聞き漏らしたのだろうと、いつものように浴槽のふたを取り、足を入れた。「冷たい！」人は思っていたことと違うことが起こると、けっこう驚くものである。「なぜだ。何があった」考えた。スイッチ盤に目をやった。そこには、エラーの文字があった。たまたまかもしれない。もう一度、入れ直してみた。しばらくすると、またエラーの文字が出てきた。私のわずかな希望は、どこかへ行ってしまった。

家人に現状を報告した。さすがにショックを受けたようだった。もう18年も使っているのだから、壊れても不思議ではないという見解だった。家人の話によると、追い炊きができないということは、石油給湯器が壊れたということであり、我が家はお湯が使えないということらしい。これは大変である。お風呂に入れない。シャワーも水しか出ない。一大事である。それもタイミングがわるく、年末である。

早速、取扱説明書を見つけ、メーカーのコールセンターに電話をした。年末だというのにつながった。状況を説明した。すぐに地元の業者に連絡をしてくれた。だが、年末年始の休みで1月4日にならないと対応してもらえないということだった。それはそうだろう。仕方がない。

どうやら我が家の年末年始は、お湯なしの水のみの生活になることが確定した。それはきつい。1月3日までは、家人の実家にいるから何とかかなるとして、仕事が始まる1月4日からはどうすればいいのか。毎日、温泉通いか。いや、福島市にもまだ一軒だけ銭湯があったはずである。

とりあえず、1月3日は温泉に行った。ようやく1月4日になった。ちゃんと地元の業者から電話があった。メーカーのコールセンターはすばらしい。すぐにでも来てほしいが、年明け初日のため混んでおり、午後になるという。

午後になった。我が家の石油給湯器を診ていただいた。何の奇跡も起こらなかった。基盤がなんとかで、古い製品のため部品がなく、修理もできないということだった。18年は、もったほうだという。何のなぐさめにもならない。加えて、巷の噂のとおり半導体不足の影響のため、注文しても製品が届くのは2～3か月後だという。万事休すか。

それでも粘って、「何か方法はありますか」と聞いてみた。「ひとつだけあります」「何だあるのか」追い炊き機能は使えないが、ごまかしごまかしお湯だけは使える方法があるというのである。必死に、かつ真剣に説明を聞いた。エラーが出た場合の対処法も教わった。リセットするのである。パソコンでいう再起動のようなものか。

コールセンターの方も、地元の業者の方も、やさしく親身な対応をしていただいた。途方に暮れている者にとっては、この上なくありがたい。これで、冷たくされたら行き場を失う。

おかげで、銭湯通いはなくなった。毎日、お湯が出なくなる事態におびえながらも、お湯が使えるありがたさをかみしめながら生活している。やっぱりお湯はありがたい。